

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4490100494		
法人名	医療法人 創寿会		
事業所名	グループホーム小野鶴 ゆふ		
所在地	大分市小野鶴字植木1150-1		
自己評価作成日	令和4年9月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年10月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練</li> <li>・地域の自然等を感じる機会を増やす。</li> <li>・一人、一人にあった個別リハビリに力を入れていきたい。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の複数のかかりつけ医が協力して設立した法人である。訪問診療や夜間の往診など、医療連携が密に取れている。</li> <li>・看護師や介護福祉士など、資格を持った職員が多く配置されている。職員のチームワークも良く、連携が図られている。</li> <li>・食事は法人の厨房で作っている。地産地消にこだわった食材で季節感のある献立を管理栄養士が作成している。レクリエーションでおやつ作り等を計画し、食事を楽しむ支援を行っている。</li> </ul>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・同様に職員の入れ替わりはあるが、その都度、管理者が理念を示している。 ・研修にも参加し、理念を実践につなげられる介護員を育成していく。	事業所の理念として、地域密着型サービスの意義を踏まえた「基本方針」をつくっている。今年度、全職員で見直しをおこない、方針の共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・現在、コロナ流行中にて行えていない。 ・コロナ収束後は地域の小学校の運動会見学に参加させて頂いたり、小学生の慰問を受けるなど考えている。	近所の人と挨拶を交わす等、日常的に交流している。以前は、事業所のイベントに地域の人を招く等、交流をしていたが、コロナ禍のため現在は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・コロナ流行中の為、自粛中 ・コロナ収束の時期をみて、地域での家族向けの介護予防講座を行ったりして、今後も地区の民生委員の方の多数参加を呼び掛けていく予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・コロナの影響にて行えていない。コロナ収束の見通しが立った際は家族会を継続して行い、ご顔家族様の意見や悩み等を聞き解消に努めると共にサービスの向上に活かしたい。	今年度は、運営推進会議を開催していない。事業所の実践状況等は、定期的に市に報告しているが、運営推進会議参加予定者に文書等で報告や意見照会はしていない。	地域の人や家族等の運営推進会議参加予定者に文書等で報告や意見照会を行い、出された意見をサービス向上に活かしていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・ケアサービスや制度に対して、長寿福祉課の担当に、その都度、相談し助言をいただいている。	市担当者に、事業所の実践状況を伝えながら、相談したり、アドバイスをもらう等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・月1回会議を開催し、利用者様一人ひとりのケアを振り返り、身体拘束、または身体拘束に繋がる行為(言葉による身体拘束等)は無いか検討しておりその内容は法人内で回覧し・日中は、常に玄関、窓を開放している。夜間は、防犯の為、施錠している。 ・利用者の安全上、家族の了承を得て、センサーベッド、赤外線センサーを使用している方が数名いる。	身体拘束をしないケアの大切さについて、継続的に研修をおこなっている。転倒防止のためのセンサーの利用や日々のケアの気付き等を会議で話し合いながら、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・法人に虐待防止委員会が立ち上がり半期に1度、職員全員を対象とした自己の振り返りを行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・月に1回法人全体で研修を行っている。その際に事業所のできる事、出来ない事をよく説明し理解して頂いている。ご家族、利用者様の説明にも迅速に対応し納得して頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・時間をかけて丁寧に説明を行っている。その際に、事業所のできる事・できない事をよく説明し、理解してもらっている。 ・ご家族・利用者様の説明に対しても迅速に対応し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族から要望があればスタッフで話し合いケアに活かしている。 ・玄関にご意見箱を設置しておりご家族からの気づきや要望を広く取り入れる様に努めている。	家族への連絡を担当職員が担っている。 本人の様子を伝えながら、意見をもらえるよう工夫している。出された意見は全職員で共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員間で意見を出し合い、必要なことは実践に移している。 会議などに出た意見は、管理者が委員会や理事会に提言し反映している。法人トップも2年ごとに交代し、意見が通りやすい仕組みとなっている。	日々のケアの中での気付きや意見は会議等で全職員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。法人全体で職員の意見や提案を聞くシステムが構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人員不足により職員の疲労とストレスが溜まりやすい環境になっている。 ・毎月、勤務希望を提出してもらい、全員の要望を取り入れ働きやすい環境に努めている。 ・年1回ストレスチャックを行い、希望者には、産業医との面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修や法人内の情報を収集し、職員それぞれに必要なと思われる研修に参加できるように努めている。 ・現在1か月に1度、会議にてケアに対する疑問意見を出し合いスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同法人内の事業所(老人保健施設、居宅、デイケア、有料老人ホーム等)と交流を持ち一緒に学んだりお互いにサービスの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・面接時に、ご本人・ご家族の方と十分にお話をし、希望や不安を把握できるよう努めている。カンファレンスにて本人のケアについてさらに深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族と話し合いをして、困っている事、不安に感じている事を把握した上で、当施設に対して希望する事を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所時、及び必要時に、ご家族・本人の思い、状況を確認し、現在必要と思われるケアを提案し早期対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入居者の残存機能に応じた活動を提供している。 ・本人の希望に添える様、極力努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者の様子や変化は、その都度ご家族に伝えている。 ・ご家族には、職員だけでは本人にとって満足のいく援助ができないことを理解していただき、職員・ご家族とが協力して援助していただけるよう心掛けている。 ・新規若しくは、あまり面会に来られない家族に対しては、職員と家族の想いの差があり、時間をかけて関係構築を行っている。 ・その都度、ご本人により良い生活を過ごしていただけるよう家族と職員間で意見交換し検討を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナの影響もあり、馴染みの友人の訪問や外出される利用者様は少なくなっています。ただ、利用者様が会いたい方がいた際は、ご家族に伝え面会の調整をしてもらっている。	手紙の支援や窓越しの面会、日常の様子を撮った写真を家族に渡す等、感染症対策を考慮しながら、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者間でトラブルが発生した際は、本人達の想いを確認し、生活環境を検討したり、人間関係修復に努めている。 ・利用者間でレクをしたり、おやつを食べながら、職員を交え、昔話や楽しく話している。 ・誕生月には、誕生日会を行い、それぞれがお祝いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・死亡退所した方は、初盆にお参りしている。又は、ご家族からもホームへの来所され近況の報告がある。 ・老健へ入所した方は、訪問し生活状況の把握をしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者様を意向を尊重するよう努めている。支え合いまでとはいかないが、一緒に生活している仲間としてレクや行事と一緒に参加し交流を行っている。	入居時にこれまでの暮らし方や想いを聞いている。職員は日々のケアの中で一人ひとりの思いや希望の把握に努めながら、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者様達の意向や希望の把握に努めている。意思疎通困難な方には、ご家族様の協力をもとに実現できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居時は、1ヶ月～2ヶ月の暫定プランを作成し、再度モニタリングをして家族や本人の思いを反映したプランを作成している。6カ月ごとにカンファレンスをして職員・家族からも意見や要望を聞きとり反映している。 ・入所期間の長い利用者に関しては、生活リズムの把握は行えており尊重できている。 ・今までできていた事が、できなくなっていた際、本人のプライドを傷つけてしまう恐れがある為、慎重に把握するように努めている。 ・不安の強い利用者に対しては、寄り添うケアを行い不安の解消に努めている。 ・毎日、スタッフ間で、利用者の一月の状況変化の情報を共有し、利用者が過ごしやすいよう、その都度検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人の意思・要望を取り入れ、それを支援する介護計画を作成している。それに沿ってスタッフが統一したケアを行っている。 ・毎朝、前日の利用者の情報をスタッフ間で共有し、支援の方法を検討・修正している。	6か月ごとにモニタリングを行い、計画の見直しにつなげている。 毎朝の申し送り時に、必要があれば支援の在り方を検討して、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子を記録し、利用者様に変化がある時は、その都度検討を行っている。 ・申し送り等を通じてスタッフ間で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者様の様子を見ながら、希望に答えられる様、スタッフ全員で努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とのより良い協働ができるよう日々検討している。</li> <li>・行事の際は、チラシ等を配り、地域の方達に呼びかけを行っている。</li> <li>・現在、コロナの為、地域交流は自粛しているが、今後は、地域の祭りに参加したり、小学校との交流(運動会見学等)を再開する予定である。</li> </ul>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のかかりつけ医が協力して立ち上げた事業所なので、協力医と連携していることが安心を求めている方もいる。家族・医療機関・看護師と連携して情報を共有している。訪問診療やかかりつけ医の立ち寄りも頻繁で24時間の医療連携体制が取れている。</li> </ul>	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。2名の看護職員を配置しており、定期訪問診療や往診、夜間対応してくれるかかりつけ医との連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤で看護師2名が勤務している。介護職は利用者に状態変化があった際、その都度報告し指示を受けたりと連携して対応している。</li> <li>・また看護師は、夜間帯も介護職から連絡を受け、かかりつけ医から指示を受けたりと迅速な対応を伝えている。</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる限り情報交換は行っている。</li> <li>・入院時、地域連携室の医療担当員と情報交換を行い、退院の準備等を行っている。</li> </ul>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時に医療内容やホームとして出来る事、できない事の説明をして納得した上で契約をしている。看取り指針や医療体制も整い、毎日の往診で体調管理や見守りができている。利用者の状態が重度化する前に、ご家族に説明して対応の方向性を決めるようにしている。</li> <li>・また、月に1回、法人全体で看取りについての会議を行い、その都度、ニーズに沿えるよう検討を行っている。</li> </ul>	入居時に、重度化の指針を説明している。状況の変化に応じて、家族や関係者と話し合いながら本人や家族の希望にそった支援をチームで取り組んでいる。看取りの経験も多く、定期的に研修を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も法人内で救急救命の講習を受けた職員が消防士指導の下講習を行う予定になっている。</li> <li>・緊急時の対応についてはご家族様と話し合いを行い要望に沿って救急救命士や職員にもわかる位置に対応方法を提示している。</li> <li>・緊急時マニュアルも作成している。</li> </ul>		
35		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にて現在行っていない。以前は毎月、定期的にシミュレーション、ユニットを変えた避難訓練を行っていた。同様に消防署立ち合いの元、指導を受け、訓練内容改善の改善を行い、訓練を行っていた。近いうちに状況を考えた訓練を行って行こうと検討している。</li> <li>・同敷地内の施設3か所に分散して、備蓄食を3日分、保管している。</li> </ul>	マニュアルを整備し、法人内に3日分の備蓄を用意している。これまで月1回、避難訓練をしてきたが、今年度はコロナ禍と職員の異動等で、避難訓練を行っていない。	昼夜の火災や自然災害等、様々な想定の下での避難訓練を年2回以上実施し、利用者が避難できる方法を全職員が身につけていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護や権利擁護など人権を含めた研修を行い、家族と一緒に認知症の理解と尊重した接し方など学んでいる。こだわりのある方に対しても尊重した対応をしている。</li> <li>・援助を行う際、利用者が自己決定しやすいよう声かけを行っている。</li> <li>・利用者の人格の尊重を行っているが、安全を優先するあまり、適切なケア、声掛けが行えていない場合もあり、定期的に職員間で自身のケアの振り返りを行っている。</li> </ul>	法人研修や職員会議等で、定期的に研修を行っている。日々の関わりの中で、利用者の尊厳を大切に声かけや対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様が、気兼ねなくスタッフに話ができ、自己決定ができるよう環境作りを行っている。自身の思いを伝えるのが苦手な方に対しても、ご本人様の意向を尊重しながら選択肢を提示し、自己決定ができるよう支援を行っている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様一人一人の生活習慣を把握し、本人の希望や状態に沿った生活が送れるよう努めている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人様の好みやご本人様の好み(服装や身だしなみ)やこだわりを尊重した支援を行えるよう心掛けている。こだわりを尊重した支援を行えるよう心掛けている。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事は、同法人内の老人保健施設の厨房の栄養士が献立を作成し、調理員が作ってくれている。季節、行事に沿った献立を考えてくれており、利用者様達も食事を楽しみにされている。利用者様の意見を栄養士にも伝え、献立や味付けに反映してもらっている。</li> <li>・行事として、流しそうめんをしたり、お菓子作りを行う事もあり、積極的に参加していただいている。</li> </ul>	食事は、同じ敷地内にある法人の厨房より届けられる。利用者の好みや希望は月1回の栄養カンファレンスの際に伝えている。レクリエーションで、おやつ作りやそうめん流し等、手作りを楽しむ機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回栄養カンファレンスを行い、職員が利用者様の食事摂取状態、水分量や体重の増減などを管理栄養士に報告を行い食事形態の変更などの助言を頂いている。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後に声掛けや必要時、見守りにて各居室の洗面台にて口腔ケアを行っている。昼食前やレクの際に口腔体操を行っている。</li> <li>・月2回、口腔衛生管理指導として歯科衛生士より、口腔ケアや口腔内の清掃保持に対して、アドバイスをもらっている。そのアドバイスを元に、訪問歯科の先生に相談し、利用者様の義歯や残歯の調整を行っている。</li> <li>・本人の了解を得て、夜間帯 義歯を洗浄剤につけている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレでの排泄が厳しくなっている利用者様もいるが、2名介助を行い、トイレでの排泄が行えている。夜間は、睡眠を優先させるためにオムツを使用の方もいる。	一人ひとりの排泄チェック表を活用し、個々のタイミングに合わせて声かけ誘導し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘にならないよう、十分な水分摂取や腹部マッサージで対応を行っている。それでも排便がない利用者は、1日で坐剤等を使用して排便してもらっている。 ・2日毎・3日毎の排便パターンの利用者が数名おり、その方は排便パターンで坐剤等を使用せず生活されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・週2回ユニット内で交代で入浴しています。車椅子利用者も機械浴で気軽に入浴でき、重度化した場合も清潔を保持できる準備がされている。入浴日は、本人の希望の曜日を聞き入浴していただいている。	一般浴槽と機械浴槽を用意しており、全員が湯船に浸かれるよう支援している。本人の希望に沿って、週2回の入浴となっている。入浴を嫌がる人には清拭や声かけのタイミングを計りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間は、みなさん良眠されている。 ・日中は起きてレク等の活動していただいている。生活リズムが乱れ、夜間眠れない方がいた際は、かかりつけ医のアドバイスを受け、日中、日光浴等をしていただき、生活リズムを整えていただいている。 ・また、寝付けない方への対応・方法も、スタッフ間で見直し検討を行い、ストレスなく眠れるよう配慮を行っている。 ・季節、環境の変化に合わせて、寝具、空調の管理を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・定期的服薬介助は必ず行っており、利用者様の体調の変化には常に意識し報告している。体調と薬の注意点は看護職員より指導がある。 ・服薬時、スタッフ2名にて呼称確認を行い、職員が責任をもち見守り又は介助にて服薬確認を行っている。服薬後はサインをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・その都度、スタッフ・利用者間で検討を行い、日々の生活の中で、できる事、主に家事・掃除等を積極的に行ってもらっている。 ・能力的に無理でも、本人の気持ちを配慮し、スタッフが支援することで役割を持ってもらえるようにしている。 ・できていない部分もあるが、できる時は個人レク(花の水やり)など気分転換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で外出ができていない。コロナ収束後外出レクや近所を散歩など利用者様の気分転換ができるように支援を行っていきたい。</li> <li>・ただ気候の良い日は日光浴を行っています。</li> </ul>	法人の敷地内を散歩したり、テラスや庭に出て季節の花を楽しむ等、日常的に行っている。外出を嫌がる人も、窓辺での外気浴を行い。全員が気分転換できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には家族が管理している。希望があれば、少額自分で管理している。</li> <li>・一部の方は小銭も持っている。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要時行っているが家族の方もよく面会に来られる為、その時に日々様子を伝えている。</li> <li>・公衆電話が、隣の老健にしかないため、希望時に同行し支援している。</li> <li>・携帯電話を持たれている方に対しても、支援を行っている。</li> </ul>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天井が高く平屋造りでゆったりとして、くつろげる空間である。職員の特技を生かした手づくりの飾りや、季節を感じる花のアレンジや鉢植えを配置し潤いがある。光全体に差し込み明るく、眩しくないよう適宜調整に配慮している。</li> <li>・共同のホールには、季節毎に飾り付けを行っている。</li> <li>・トイレは、流す事ができない人達に対しては職員が確認し、その都度清掃し次の方が気持ちよくいけるよう心がけている。</li> </ul>	静かで、庭に面した大きな窓から柔らかな光が入り、季節の花を楽しむことができる。リビングが広く、食卓をいくつかに分けて配置でき、一人ひとりが好みの場所でくつろげるよう配慮している。トイレの扉に目印を大きく貼り、不安なく利用できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様がソファに座り2~3人でをしたり、居室に戻りのんびり過ごしている方もいる。</li> <li>・ソファー・テーブル・椅子等の配置を、その都度工夫している。</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が安心、快適に過ごせるよう、それぞれに合った生活環境を配慮している。入所時に、ご家族様とも検討し、本人にとっての馴染みの物や愛着のあるアルバムやお気に入りの椅子など持って来てもらい、昔の事や家族との思い出を、すぐに思い出させ心穏やかに過ごせるよう心掛けている。</li> </ul>	入居時に、家族と相談しながら、本棚やテレビ、写真など、本人の馴染みのものを活かして、居心地よく過ごせる居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様がソファに座り2~3人でをしたり、居室に戻りのんびり過ごしている方もいる。安全に動きやすい様配慮している。</li> </ul>		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4490100494		
法人名	医療法人 創寿会		
事業所名	グループホーム小野鶴 つるみ		
所在地	大分市小野鶴字植木1150-1		
自己評価作成日	令和2年9月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年10月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練</li> <li>・地域の自然等を感じる機会を増やす。</li> <li>・一人、一人にあった個別リハビリに力を入れていきたい。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p><b>【グループホーム小野鶴 ゆふに記載】</b></p>
----------------------------------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員の入れ替わりはありましたがその都度、管理者が定期的に理念を示しており、その都度職員間で共有している。 ・新入社員は当施設の理念に沿って、オリエンテーションで学び歩行づけをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・今年もコロナの影響もあり外出行事やボランティアさんの交流が中止になり地域との付き合いは行えませんでした。 ・コロナが収束し見通しが立ち次第、地域との交流を図りたいと思っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・コロナの影響もあり地域の人に向けて交流ができていない為行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・コロナの影響にて出来ていない。コロナ収束や見通しが立った際は家族会を継続して行い、家族様の意見や悩み等を聞き解消に努めると共にサービス向上に活かしたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・立ち上げ時から相談をしながらアドバイスを受けている。 ・ケアサービスや制度対して市職員や包括職員から意見をもらいケアに反映させている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・GH内で月1回の会議があり、その際に身体拘束につながる行為が無いか話し合っている。玄関の施錠は夜間の防犯の為施錠している。又、ご家族様の了承を得て安全の為、数名センサーを使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止委員会を設置しており、社内、外からの苦情、受付、経過記録書を提出、報告を行い魏虐待が見過ごされる事がないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・コロナの影響にて法人全体での研修は行えていませんが、職員に対して伝達講習を行っている。今後成年後見制度について学ぶ機会をもうけ、理解を深めるように考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・時間をかけて丁寧に説明を行っている。その際に、事業所でできる事・できない事をよく説明し、理解してもらっている。・ご家族・利用者様の不安や疑問がないか尋ね十分な説明を行い納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族の方には面会、来苑時にご利用者様の状況報告を行っている。その際、意見や要望を聞きその後のスタッフで話し合いケアに活かしている。又、玄関に意見箱を設置しており、そこから気づきや様防を取り入れられるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員間で意見を出し合い、必要なことは実践に移している。会議などに出た意見は、管理者が委員会や理事会に提言し反映している。法人トップも2年ごとに交代し、意見が通りやすい仕組みとなっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人員不足により職員の疲労、ストレスが溜まりやすい環境になっている。 ・年1回ストレスチェックを行い希望者には産業医との面談を行っている。 ・毎月勤務希望を提出してもらい、要望を取り入れやすい環境になるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修や法人内の研修の情報を収集し職員がそれぞれに必要なと思われる研修に参加できるように努めている。 ・1ヶ月に1度の会議にてケアに対する疑問や意見を出し合いスキルアップ向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・現在は行っていない。 ・同法人内の事業所の書面による研修やケアに対する情報提供等でサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面接時に、ご家族様からの情報、本人様からの要望を聞き安心して過ごして頂けるよう傾聴を心掛け信頼関係を築けるよう努めている。・不安に感じている事も話しやすい雰囲気を作り良い関係を築けるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族と話し合いをして、困っている事、不安に感じている事を把握した上で、当施設に対して希望する事を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時に、ご家族・本人の思い、状況を確認し、現在必要と思われるケアを提案して早々に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者様と一緒に過ごす中で、コミュニケーションを取りながら少しずつ関係が良好に構築できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご本人様の様子や変化は、その都度ご家族に伝えている。 ・ご家族との関係を十分に考慮し本人、家族、職員で相談・共有しながら支えていけるように関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナの影響もあり、馴染み友人の訪問や外出される利用者様は少なくなっています。ご利用者様がご香家族の方に「会いたい」というご希望があるときはご家族の方に電話し面会に来て頂いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者間で会話できる方が少なくなってきましたが、日頃の生活、レク、行事などに一緒参加される事で会話が少なくても安心していられる関係性ができている。 ・誕生日会の際には皆さんで記念写真などを一緒に撮りお祝いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・死亡退所した方は、初盆にお参りしている。又は、ご家族からもホームへの来所され近況の報告がある。 ・老健へ入所した方は、訪問し生活状況の把握をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居後も本人と接しながらその方の思いや意向を把握している。その思いに添えるような関わり方をしている。困難な場面では職員同士で話し合い本人の視点に立ったケアを心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人や家族と話すことで把握に努めている。また、日々の何気ない発言からも、これまでの生活等を推測して、スタッフ間で情報を共有している。それを生活の中で活かさないか、その都度、スタッフ間で検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居時1ヶ月～2ヶ月間の暫定プランを作成し再度モニタリングをして家族や本人の思いを反映したプランを作成している。入居期間が長い利用者様に関しては生活リズムができており尊重できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人の意思・要望を取り入れ、それを支援する介護計画を作成している。ただ発語困難な利用者様もいらっしゃる為、その時はご家族に聞き取りを行っている。毎朝、情報伝達を行い、スタッフでその都度支援の方法を話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子を記録し、利用者様に変化がある時はその都度スタッフ間で検討を行いケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者の髪が伸びている時は、ご家族様に話し訪問理容をしている。行事等ある時はボランティアサービスもコロナ禍にて受け入れていないがコロナ収束後は受け入れを考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所のボランティアさんや近隣に回覧して頂き呼びかけを行っていましたがコロナの影響にて出来ていない。地域の祭りや小学校の運動会にも参加できていないが利用者様が運動会や子供さんを見るととても掛け声を上げ声援される為、コロナ収束後の見通しが立ち次第打診を行っていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・地域のかかりつけ医が協力して立ち上げた事業所なので、協力医と連携していることが安心を求めて利用する方もいる。家族・医療機関・看護師と連携して情報を共有している。訪問診療やかかりつけ医の立ち寄りも頻繁である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・常勤で看護師2名が勤務している。介護職は利用者に状態変化があった際、その都度報告し指示を受けたりと連携して対応している。 ・また看護師は、夜間帯も介護職から連絡を受け、かかりつけ医から指示を受けたりと迅速な対応を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した利用者が負担なく戻ってこれるように、退院前情報交換を行っている。 ・必要時には、適切な医療機関を紹介している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時に医療内容やホームとして出来る事、できない事の説明をして納得した上で契約をしている。看取り指針や医療体制も整い、毎日の往診で体調管理や見守りができている。利用者の状態が重度化する前に、ご家族に説明して対応の方向性を決めるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・今年度も法人内で救急救命の講習を受けた職員が消防士指導の下講習を行う予定になっている。 ・緊急時の対応についてはご家族様と話し合いを行い要望に沿って救急救命士や職員のもわかる位置に対応方法を提示している。 ・緊急時マニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・コロナ禍前は毎月、定期的にシュミレーション、ユニットを変えた避難訓練を行い消防署立ち合いの元、指導を受け、訓練内容改善の改善を行い、訓練を行っていた。現在は出来ていないが見通しが立ち次第行っていきたい。 ・災害対策マニュアルも作成しており、災害時はすぐに対応できるように職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人情報保護や権利擁護など人権を含めた研修を行い、家族と一緒に認知症の理解と尊重した接し方など学んでいる。こだわりのある方に対しても尊重した対応をしている。 ・援助を行う際、利用者が自己決定しやすいよう声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者様の性格に合わせた声掛けを行い、出来る限り自己決定しやすい環境作りに努めています。発語困難な方に対しては表情の変化や状況に応じて判断をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・できる限り利用者一人一人のペースで過ごして頂くよう努めてはいるが、入浴など時間が決められていることもあり、職員の用事を優先してしまうこともあったがそのような事がないよう今後は時間配分などを考え改善に努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・利用者様により、毎朝 化粧水・乳液を塗ったり、男性利用者様は髭剃りをされたりなど、それぞれに合った身だしなみで整えられている。(身だしなみを拒む方が1名います徐々に習慣づけできるようにしたい。)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・同法人内の厨房で季節行事に沿った献立を考えて提供している。利用者様も食事を楽しみにしている。食欲がわくような声掛けに心がけている。 ・フルーツポンチ作り、わたがし作りなども食事以外で行いより楽しんで頂くよう配慮を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・月に1回栄養カンファレンスを行っており、個々の状態によって食事形態の変更や補助食品の追加を取り入れ、低栄養、食欲不振、床ずれの発生予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・月2回、口腔衛生指導にて歯科衛生士に口腔内をチェックし、気づいたことをアドバイスして頂いた事を、職員が日々の口腔ケアを行う時に実践している。又、職員は口腔ケア時にトラブルを発見した場合、直ぐに歯科Drに相談するような体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・利用者様の尿意・便意ある・なしにかかわらず、できる限りトイレにて排泄して頂くよう支援を行っています。身体的に立位の厳しい方でも2名介助にて行っている。テナ使用の方も交換時に陰洗を必ず行っている。睡眠を優先させる為、テナを使用される方もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄チェック表にて、排泄パターンを確認し、利用者の状態に応じて1日毎、2日毎、3日毎、4日後にて座薬・内服を使用し対応している。便秘にならない様、十分な水分補給や必要時は腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・週2回ユニット内で交代で入浴している。利用者も機械浴で気軽に入浴でき、重度化した場合も清潔保持できる準備がされている。本人の希望の曜日を聞き入浴をして頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間は、みなさん良眠されている。 ・日中は起きてレク等の活動していただいている。生活リズムが乱れ、夜間眠れない方がいた際は、かかりつけ医のアドバイスを受け、日中、日光浴等をしていただき、生活リズムを整えていただいている。 ・また、寝付けない方への対応・方法も、スタッフ間で見直し検討を行い、ストレスなく眠れるよう配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・利用者が使用している薬の目的、副作用などは常にファイルに閉じており、職員全員が確認できるようにしている。必要時は看護師に確認している。服薬介助は職員が行っており、服薬後はサインをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・能力的に厳しくても本人の気持ちに配慮し、職員が支援することで、役割を持って過ごして頂いています。利用者様との会話の中から新たな役割として、利用者様が字が書けなくなったから書けるようになりたいという希望があったり、体を動かしたいなどの希望があったりしますので希望に添えるよう行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナの影響で外出は出来ていません。施設で喜んでもらえるような企画を考え毎月行っています。 ・日々の生活の中でテラスや庭に出て日光浴を行ったり、体操や歌を唄う事を行っています。又、以前のように外出可能になった際は色々な所へ行きたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金を使う事を希望される方はいませんが、行事の買い物に行かれた時は、自分の欲しい物を買ったり、アイスやコーヒーを飲まれる方もいました。見通しが立ち次第買い物ツアーを企画したいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者様も電話番号を覚えていない方も多いため、スタッフがご家族の方に電話をかけ本人が話せるように支援している。手紙が届いた際、本人が読んで欲しいと希望された時は代読をお行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・天井が高く平屋造りでゆったりとして、くつろげる空間である。職員の特技を生かした手づくりの飾りや、季節を感じる花のアレンジや鉢植えを配置し潤いがある。光全体に差し込み明るく、眩しくないよう適宜調整に配慮している。 ・共同のホールには、季節毎に飾り付けを行っている。 ・トイレは、流す事ができない人達に対しては職員が確認し、その都度清掃し次の方が気持ちよくいけるよう心がけている。現在コロナの為換気には十分注意を払っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者様、ご家族様2~3人でソファに座り、テレビを見たり、時には話しをしたりしながら過ごされたり、居室で音楽を聴いたり、テレビを見て過ごされたり皆様が自分のペースで過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・どの部屋からも季節折々の景色が眺められ、テレビやソファ、鏡台など持ち込み、好きな本を並べて生活を楽しんでいる。入所時にご家族と検討し、本人にとって馴染みの物や愛着のあるアルバムやお気に入りの椅子など家族との思い出も大切にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者様ができる限り自立した生活をして頂く為、利用者様個人ができる事、できない事を職員が理解し新たに気がついた事を話し合い、安全に過ごして頂けるよう配慮している。		